

令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月25日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
力の育成に努める。 「わかる、楽しい授業」を基盤に、自ら学ぶ	学ぶ意欲の育成	「地域の人・もの・こと」を教材に取り入れ、問題解決の成就感を味わえるような問題解決学習の実践を充実させる。	B	B	生活科・総合的な学習の時間・社会科など地域のかたの協力を得て多くの学習を行うことができた。問題解決学習に意欲的に取り組む様子が見られた。 タブレットを使っての調べ学習やまとめ、意見交流も増えてきている。より効率的な活用の仕方を今後も模索する必要がある。	C	子どもたちの授業態度はとてもよく、よい目をしている。地域のことを考えさせるのは、大切なことだ。教職員もよくやっているので、評価はもっと高くてよい。	地域のかたの力を借りながら、体験を多く取り入れた学習等を今後も進める。 少人数のよさを生かすとともに、ICT機器を積極的に活用することで個に応じた学び方ができる機会を増やす。
	学び方の習得	発達段階に応じ、ICTの活用など自ら学ぶ力を支える学び方を身につけさせる。	B	B				
心豊かな子を育てる教育活動を推進する。	自己有用感の向上	子どもの居場所を確保し、認め合う場を大切にして、周りから認められている自分を感じさせる。	A	A	学級活動や行事、「賀茂タイム」などの縦割り活動で、自分の役割を自覚し、行動する姿が見られた。 児童の意識が高いときは、気持ちのよい挨拶が広がった。いつでもどこでもというところまでは来ていないので、挨拶について考える機会をもたせ、改善を図り、挨拶への意識を継続させたい。	A	子どもたちは、素直に育っている。登校時、通学路での挨拶の声が小さいと感じる。気持ちのよい挨拶ができるように今後も指導していくほしい。	6年生だけでなく5年生も巻き込み、高学年として一人一人が活躍できる場を設ける。 家庭や地域と連携し、人とのつながりを大切にし、挨拶で心のつながりも感じられるような取り組みを考えていく。
	生活習慣の基本、挨拶意識の向上	「いちばん挨拶ができる学校」をキーワードに、子ども主体の挨拶運動を図る。	B	B				
規則正しい生活習慣を養い、心身ともにたくましい子の育成に努める。	健康で丈夫な体作りへの意識の向上	自分の健康に関心をもち、日常生活を振り返り改善できる子どもを育てる。	A	A	生活点検活動「めざせ100点」や「メディアコントロールチャレンジ」など、健康で規則正しい生活習慣の育成を進めた。授業のはじめの「賀茂っ子ドリル」や縄跳びチャレンジに加え、運動委員会が休み時間に運動場や体育館での活動を呼びかけることで、子どもたちの向上を図った。	A	家庭ごとに事情やルールがあるので、規則正しい生活習慣の育成は難しいところがある。休み時間には、外遊びを推奨する委員会活動などがあるのはよいことだ。	体力向上を目指し、子どもたちに運動する機会をより多く与えられるよう、授業や委員会活動での取り組みを工夫していく。 望ましい生活習慣について継続して情報提供を行い、振り返る機会を設ける。
	バランスのとれた基本的な体力の育成	縄跳び活動、賀茂っ子ドリルなどの総合的な体力向上を目指す活動を、年間を通して取り組む。	A	A				
安心して学ぶことができる、通わせることができる学校づくりを推進する。	職員の安全に対する意識の向上	「安全が最優先」を肝に銘じ、リスクマネジメントとクライスマネジメントの視点から、安全管理体制を充実させる。	A	A	さまざまな状況下での避難訓練を設定し、教職員の動きを確認した。子どもたちへの事前指導をしっかり行い、より臨場感のある避難訓練を実施することができた。	A	下校後の自転車での交通事故が心配だ。繰り返し交通安全指導をしてほしい。 校務支援員がいてくれることはとてもよいことなので、うまく活用して、子どもたちとの時間を作ってほしい。	児童の安全を最優先に、安全マニュアルの見直しを行う。「自分の命は自分で守る」ことを前提として、安全教育を推進する。 会議の時間設定を工夫したり、校務支援員の活用を進めたりすることで、働き方を見直し、多忙化解消につなげる。
	教職員の多忙化削減	全職員協働での教育活動の推進、タイムマネジメント能力の向上を目指す。	A	A	校務支援員に業務依頼を適切に行うことで、学習や行事の準備をスムーズに行うことができた。ゆとりができることで児童とふれ合う時間や教材研究の時間を確保することができた。			

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】